

この道の両側にある梅の木は、瑞巖寺の創設者の藩主伊達政宗（1567-1636）によって朝鮮半島から持ち帰られた。100 年以上にもわたる内戦の末、1590 年に天下を統一した豊臣秀吉（1537-1598）が 1592 年から 1598 年の間、2 回にわたり指揮を行った半島侵略に政宗は参戦したが、失敗に終わっている。政宗は瑞巖寺を建てた記念に木を植えた。その木は 4 月上旬には花を咲かせ、こちら側には赤色、反対側には白色の花を咲かせる。赤と白の組み合わせは日本では縁起が良く、お祝い場でよく見られる。